小矢部市埋蔵文化財調査報告書第79冊

富山県小矢部市

# 平成28年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

２０１７年 ３月

小矢部市教育委員会

# 例　　言

１．本書は、２０１６（平成２８）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。

２．調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、水牧遺跡隣接地は株式会社エイ・テックに業務支援を委託した。担当は次のとおりである。

調査事務：大野淳也（生涯学習文化課主査）

現地調査 岡田一広（株式会社エイ・テック）：水牧遺跡隣接地

大野淳也：上記以外

３．現地調査の作業員は、（公社）富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。

４．本書の編集・執筆は大野が担当したが、水牧遺跡隣接地については岡田氏に執筆を依頼した。

５．土層の色調については『新版　標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、１９６７）に準じている。

６．出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

# 目　　次

事業の概要…… 1
市内遺跡発掘調査等事業一覧…… 2
市内遺跡発掘調査等事業位置図…… 3
水牧遺跡隣接地（仮称 芹川遺跡）…… 4
報告書抄録…… １２

# 事　業　の　概　要

## 平成 28 年度の概要

2016（H 28）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は５件である。いずれも試掘調査で、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受けて実施した。さらに、開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等は合わせて 80 件以上あった。

調査の原因は、開発行為別にみると、個人の住宅建設、携帯電話無線基地局建設、公共事業に伴うものがある。事業の原因者は、個人２件、民間事業所１件、公共団体２件である。

今年度の調査で遺構や遺物が検出されたのは、県営農地整備事業予定地の芹川地内で実施した水牧遺跡隣接地の試掘調査１件のみであった。この調査の原因となったのは、小矢部川右岸の平野部に位置する柳原地内と芹川地内にまたがる約 790,000 ㎡の範囲の水田において計画された圃場整備事業で、その範囲内には従来、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかった。しかし、その事業面積が広大であったため、事前に遺跡分布調査を行うこととし、平成 27 年４月上旬の耕作前に踏査を実施した。この事業予定範囲内には、過去に分布調査を実施して遺物が確認されなかった部分や、周辺の遺跡の調査等から遺跡の広がりが予想されない部分も含まれていたことから、踏査は主に南側の水牧遺跡に近い場所を対象とした。その結果、一級河川中川に接する約 30,000 ㎡の範囲において須恵器や土師器が採取されたことから、事業主体者である富山県高岡農林振興センターとの協議を行い、今年度の耕作終了後に試掘調査を実施して遺跡の内容や広がりを確認することとなった。試掘調査の内容については本書次項に詳しいが、その結果、古代を中心とした多量の遺物を含む黒色土層の広がりと溝や穴などの遺構が確認された。その分布範囲は今回の調査地よりもさらに北側へ拡大することが確実と見られ、全体範囲は掴みきれていないが、埋蔵文化財包蔵地として登録すべき内容をもつことが判明したことから、この周辺については今後、「芹川遺跡」の名称で登録手続きを行う予定である。

# 市内遺跡発掘調査等事業一覧

| No. | 遺　跡　名 | 所　在　地 | 調査対象面積<br>(掘削面積) | 調査種別 | 調査期間 | 調　査　結　果 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石動条里遺跡 | 西福町<br>961−27 | 237.27㎡<br>(5.2㎡) | 試掘調査 | 28.6.3 | 遺構、遺物確認されず。 | 個人住宅建設 |
| 2 | 桜町遺跡 | 西中野<br>字庭植<br>441−1 | 12㎡<br>(2.1㎡) | 試掘調査 | 28.8.19 | 遺構、遺物確認されず。 | 携帯電話無線基地局建設 |
| 3 | 大勢町遺跡 | 北反畝<br>1698−7外 | 378.66㎡<br>(5㎡) | 試掘調査 | 28.10.26 | 遺構、遺物確認されず。 | 個人住宅建設 |
| 4 | 水牧遺跡隣接地 | 芹川<br>1130外 | 29,407㎡<br>(1,270.2㎡) | 試掘調査 | 28.10.17<br>～11.29 | 溝、穴（奈良・平安時代）検出。土師器、須恵器、瓦塔、円面硯、珠洲焼、近世陶磁器出土。 | 県営農地整備事業（圃場整備） |
| 5 | 田川条里遺跡 | 田川<br>7056 | 2,889㎡<br>(60㎡) | 試掘調査 | 28.11.4 | 遺構、遺物確認されず。 | 土地改良総合整備事業（暗渠排水工事） |

# 市内遺跡発掘調査等事業位置図

(1:25,000)

# 水牧遺跡隣接地【仮称　芹川遺跡】

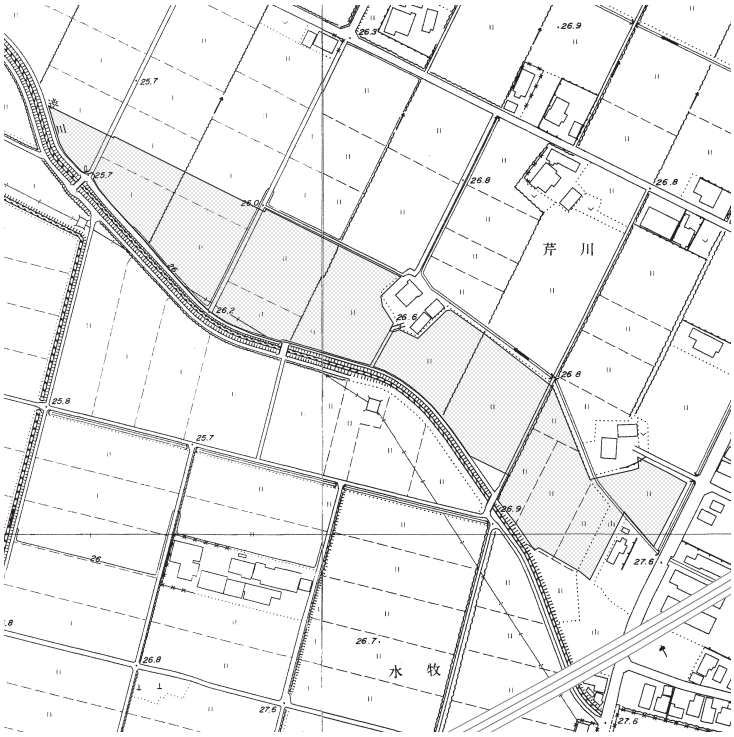



図１　調査位置図
（1：5,000）

## 1. 調査の概要

今回の調査は、県営農地整備事業（圃場整備）に先立つ試掘調査である。調査対象面積は29,407㎡で、調査面積は1,270.2㎡である。現地調査は平成28年10月17日から同年11月29日にかけて実働28.5日で実施した。

調査対象範囲は、事業計画を受け平成27年４月に実施した現地踏査の結果、遺物が採取された地点等から設定した。一級河川の中川を挟んで南に位置する水牧遺跡に隣接する。庄川扇状地の西端部に位置し、標高は約25.3～26.5ｍである。調査は幅1.0ｍ、長さ20ｍの試掘トレンチを50本設定した。重機によって表土および堆積土を掘削し、人力により精査した。最大掘削深度は85㎝である。

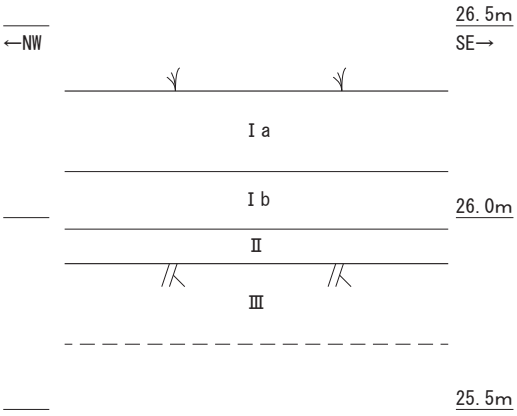
基本層序は、Ⅰ層;暗灰黄色細粒砂質シルト（水田耕作土）、Ⅱ層;黒褐色粘土（古代遺物包含層）、Ⅲ層；灰黄色粘土質シルト～黄褐色細砂～礫層（地山）で、調査地区南側の渋川に近い箇所ではグライ化し青灰色細砂の箇所も部分的にある。

Ⅰ層とⅡ層との間には間層がある箇所が部分的にあるが、基本的には床土や過去の圃場整備に伴う造成土である。Ⅱ層は遺物包含層で、古代の遺物が出土した。分布範囲は調査地区中央部（T6・14～21・24～26・28～38・41～43）で確認でき厚さは５～20㎝を計り、北側へ延びていると推定できる。遺構検出面はⅢ層（地山）直上である。

図２　トレンチ位置図（1:2,500）

## 2. 遺構

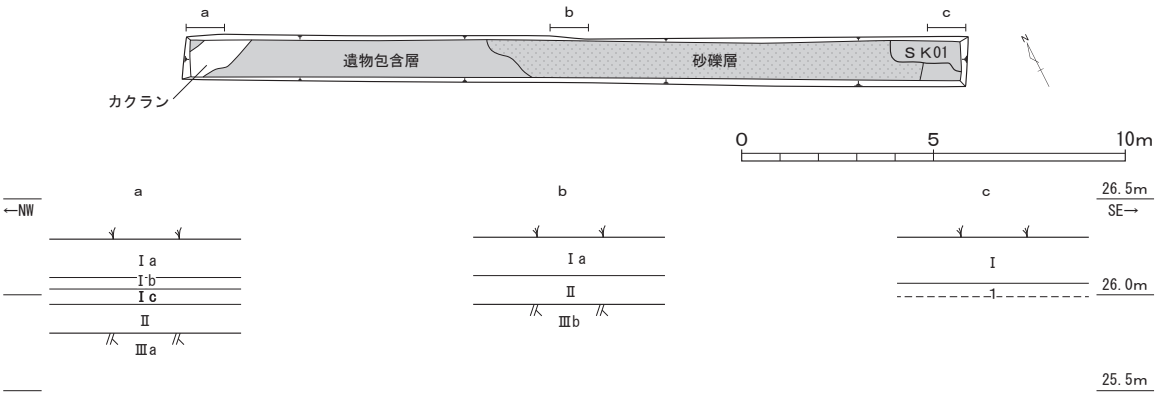
遺構は、土坑、溝、ピット、凹地を検出した。溝はT17・20・22・25・32～34・36・38・40で検出した。方向は南北方向を基調とする。土坑はT37で検出した。長軸1.8ｍ以上、短軸0.6ｍ以上を計る。覆土は黒褐色シルトである。




T33西側

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ⅰa | 耕作土 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色細粒砂質シルト |
| Ⅰb | 現代造成土 | 2.5Y6/1 | 黄灰色粘土質シルト |
| Ⅱ | 遺物包含層 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土 |
| Ⅲ | 地山 | 2.5Y7/2 | 灰黄色粘土質シルト |

図３　基本層序（１：20）




| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰa | 耕作土 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色細粒砂質シルト | Ⅲa | 地山 | 2.5Y5/4 | 黄褐色粘土質シルト |
| Ⅰb | 現代造成土 | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘土質シルト | Ⅲb | 地山 | 2.5Y5/4 | 灰黄褐色細粒砂　φ10～100mm大の礫 |
| Ⅰc | 現代造成土 | 10YR4/1 | 褐灰色粘土質シルト | 1 | ＳＫ01覆土 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土（Ⅱ層を覆土とする） |
| Ⅱ | 遺物包含層 | 2.5Y3/1 | 黒褐色粘土 | | | | |

図４　T37平面図・断面柱状図（１：200、１：40）

T33全景（南東）　　T33西側土層（南西）

T37全景（南東）

T37土坑検出状況（西）

T20全景（南東）

T20遺物出土状況（西）

### 3. 遺物

出土遺物には、土師器・須恵器・珠洲・肥前・伊万里・近世陶器・砥石・円面硯・瓦塔・土錘・鞴羽口・鉄滓がある。古代の遺物はⅡ層から出土した。１はT14から出土した須恵器の杯Ｂで口径９.０㎝、器高４.０㎝、底径４.４㎝を計る。２～４はT16から出土した。２は土師器の甕もしくは鍋の口縁部で口径28.０㎝を計る。３は須恵器の杯Ｂで口径17.８㎝、器高４.０㎝、底径９.３㎝を計る。４は土錘で全長４.６㎝、最大径２.４㎝、孔径１.０㎝、重量19.３ｇを計る。５はT17から出土した土師器の椀・皿類の底部で底径５.０㎝を計る。底面は回転糸切りである。６はT18から出土した須恵器の杯Ｂで口径16.２㎝、器高６.１㎝、底径10.６㎝を計る。７はT19から出土した須恵器の杯Ａで口径13.８㎝、器高３.３㎝、底径９.６㎝を計る。８はT27から出土した須恵器の杯Ａで口径13.８㎝、器高２.７㎝、底径11.０㎝を計る。９・10はT29から出土した。９は土師器の甕の口縁部で口径23.４㎝を計る。10は須恵器の杯Ｂ蓋で口径13.４㎝を計る。11はT31から出土した須恵器の杯Ｂで口径14.９㎝、器高３.４㎝、底径９.０㎝を計る。１２はＴ３２から出土した須恵器の杯Ｂの底部で底径８.２㎝を計る。１３～１６はＴ３３から出土した瓦塔で、土師質である。13～15は屋蓋部で半截竹管で瓦葺きを表現する。13は軒先部で垂木を１.０㎝間隔で削り出している。16は部位不明であるが、接合痕がある。17はT36から出土した須恵器の杯Ｂ蓋で、口径13.８㎝を計る。18はT39から出土した円面硯で、口径７.８㎝を計る。脚部は欠損しているが、透かしの上部が確認できる。外面上部には廉状文を施す。19はT41から出土した須恵器の杯Ａで口径12.８㎝、器高３.６㎝、底径９.０㎝を計る。20はT42から出土した須恵器の杯Ａで口径12.２㎝、器高３.１㎝、底径９.２㎝を計る。底面に線刻がある。

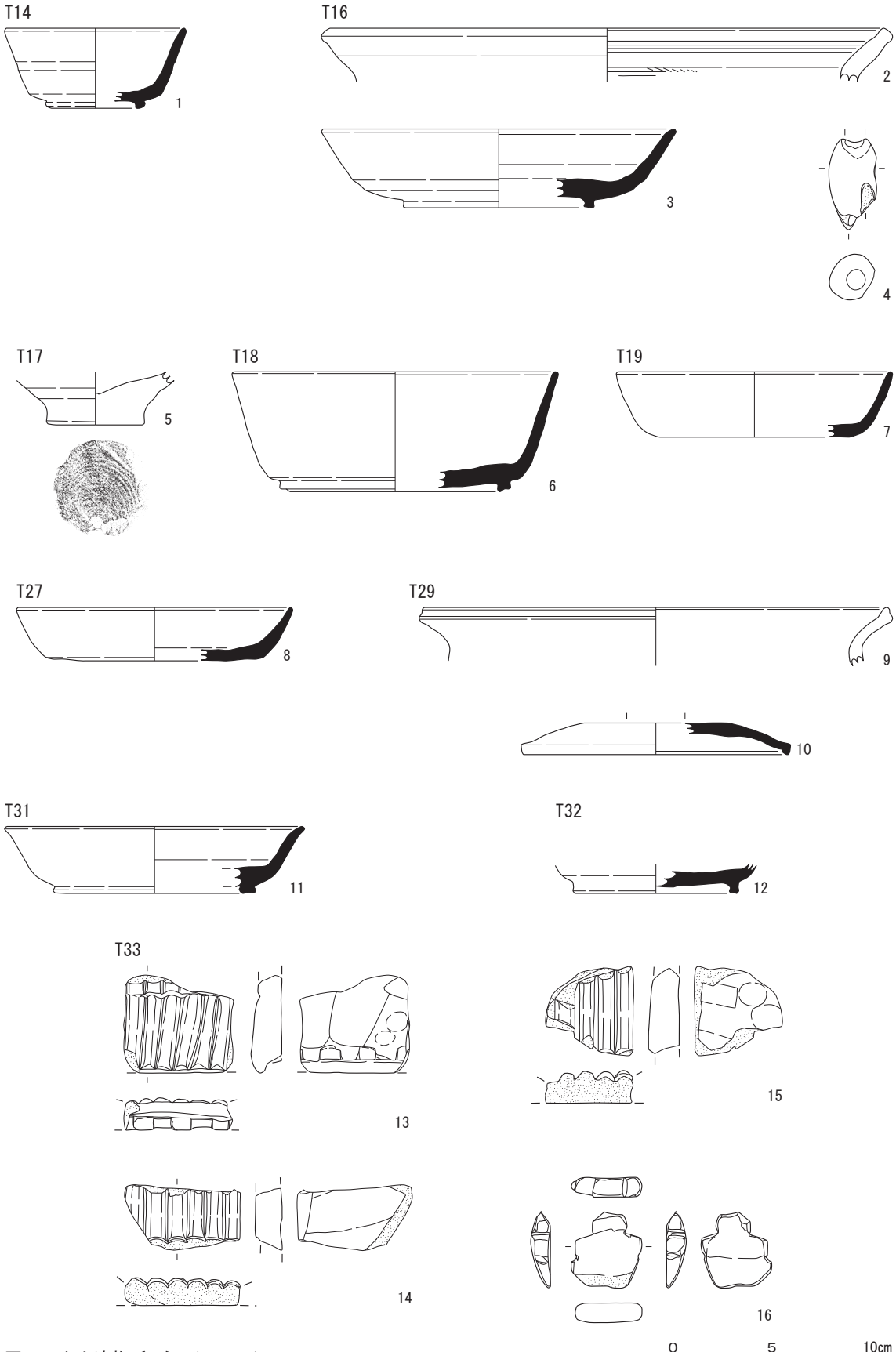

T14
1
T16
2
3
4
T17
5
T18
6
T19
7
T27
8
T29
9
10
T31
11
T32
12
T33
13
14
15
16
0
5
10cm

図５　出土遺物〔１〕（１：３）

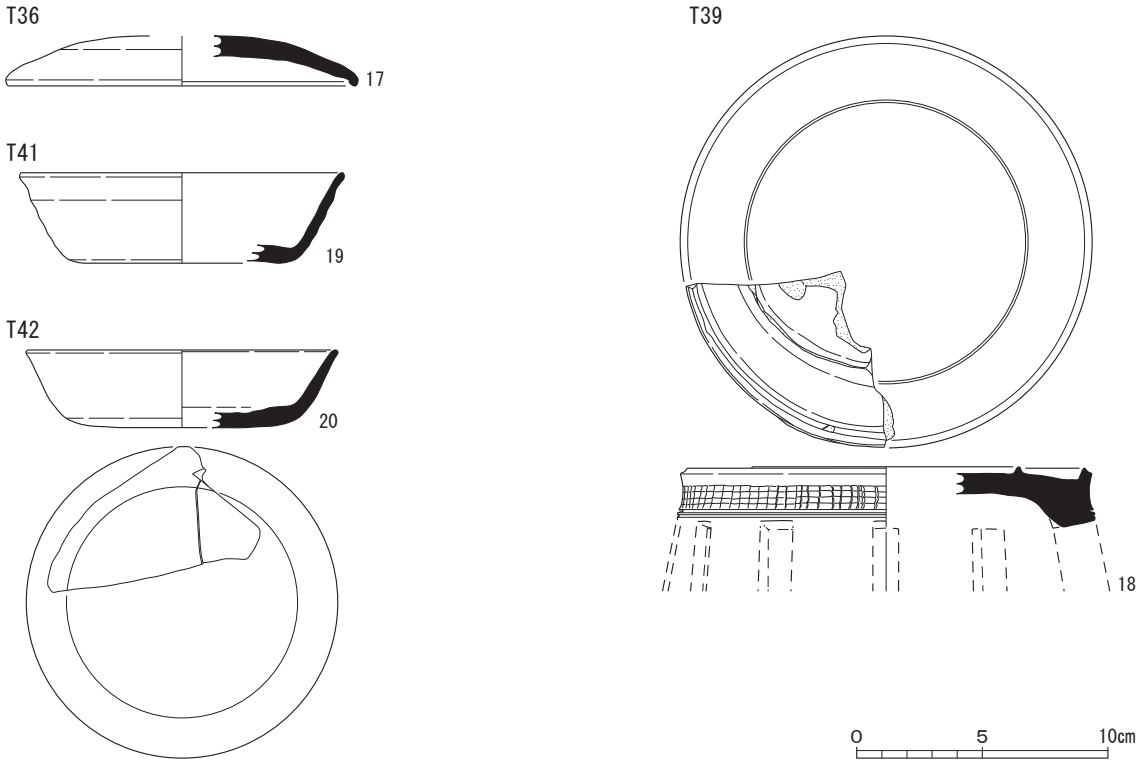
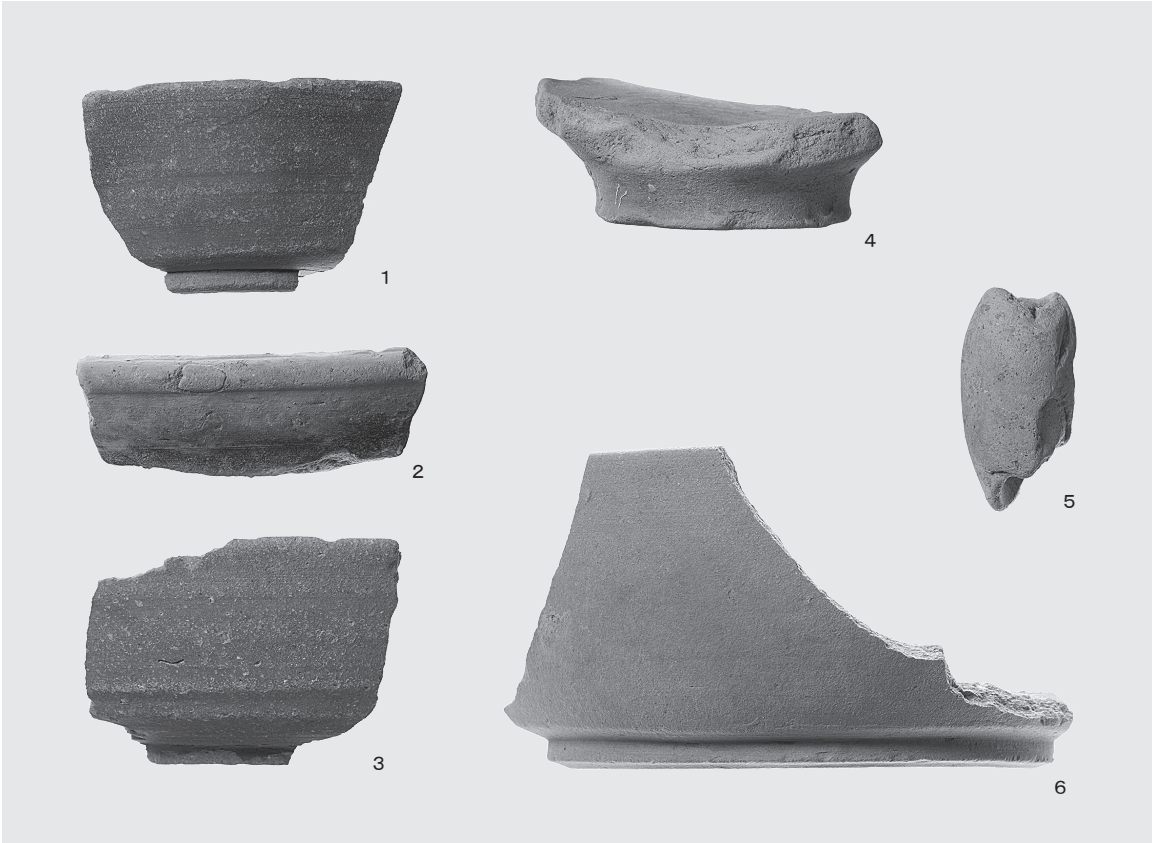
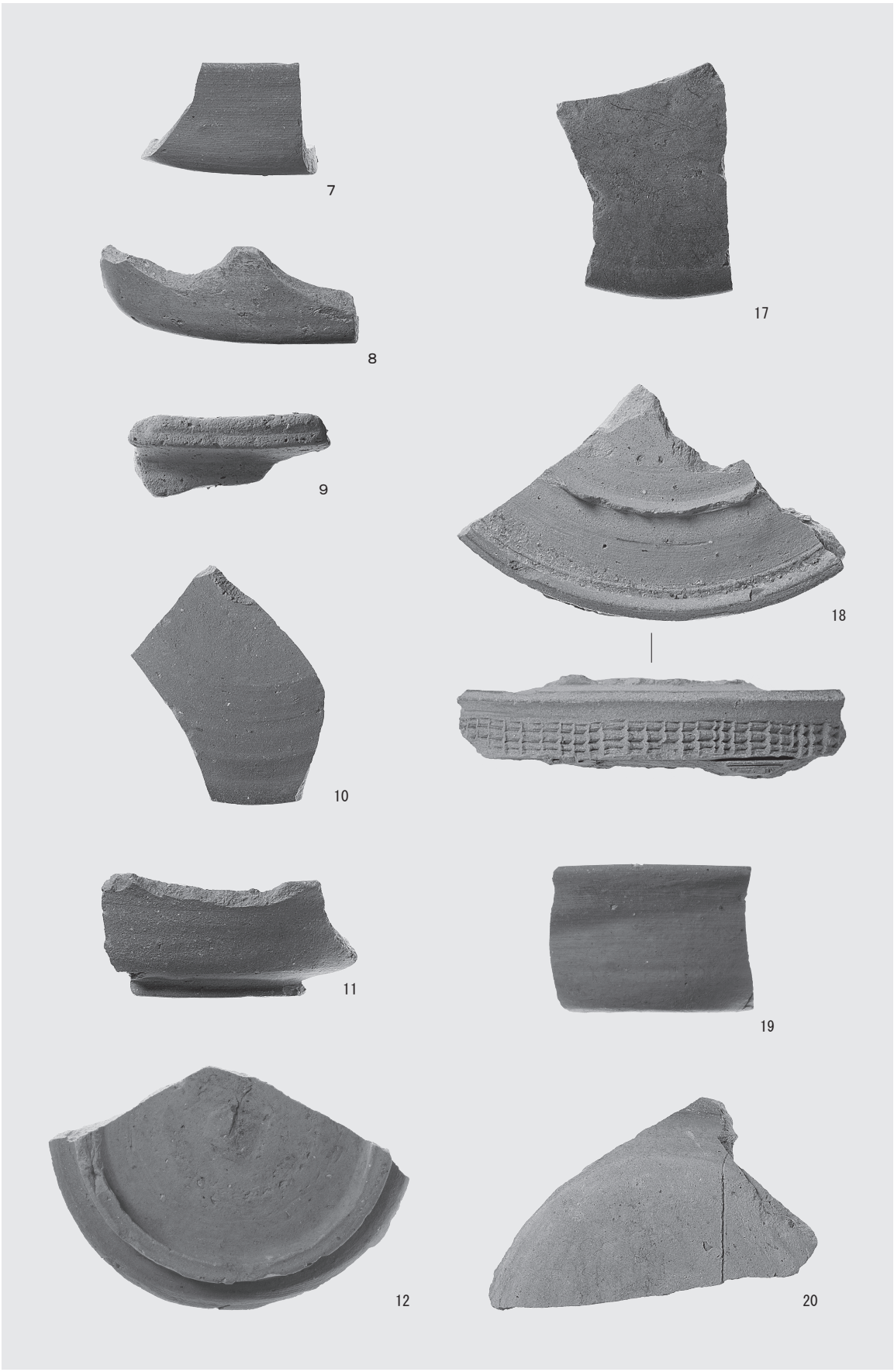


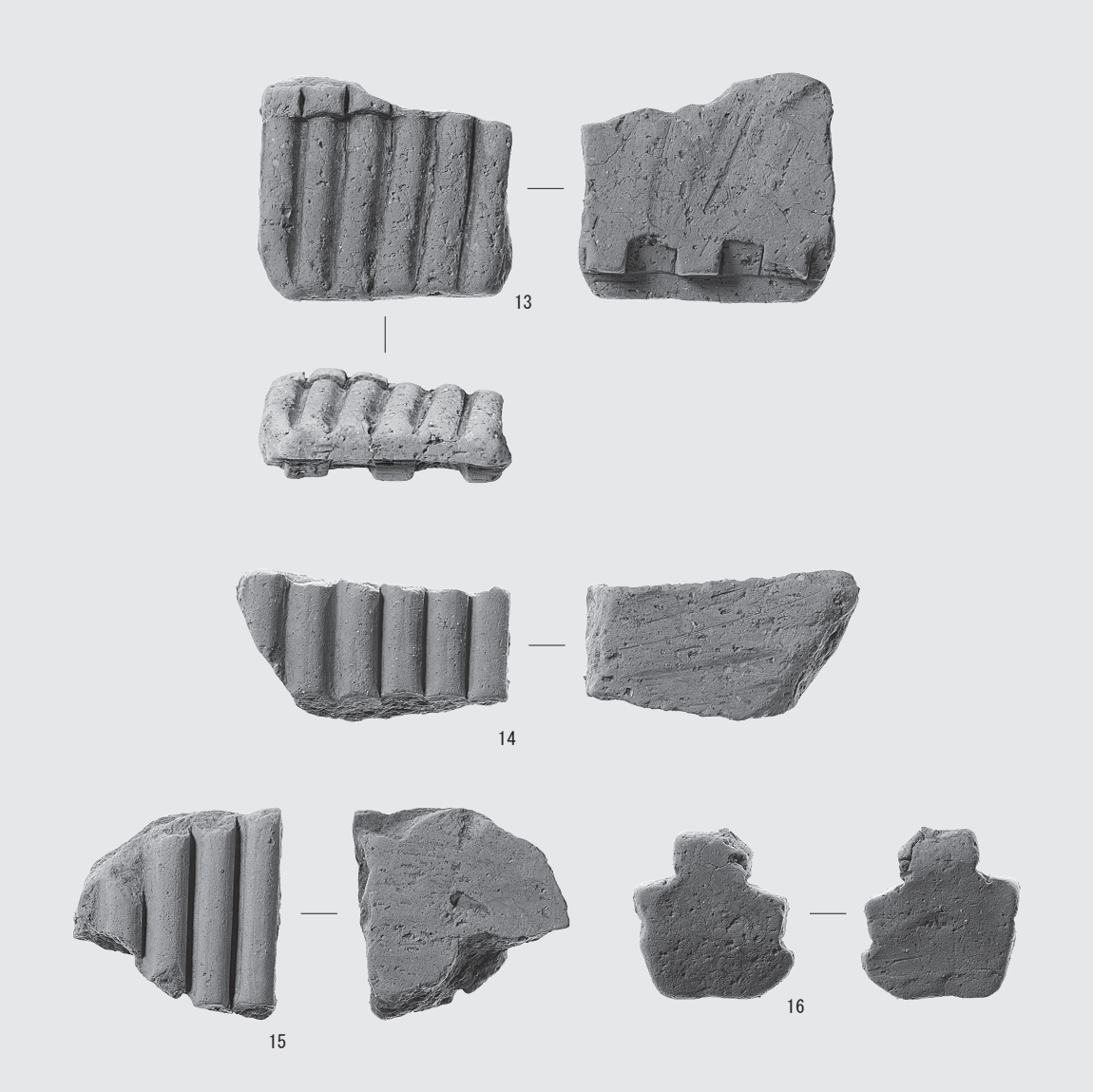

図６　出土遺物〔２〕（１：３）




出土遺物〔１〕




出土遺物〔２〕




出土遺物〔３〕

## ４. まとめ

今回の試掘調査では、確認された遺構は少ないが、調査対象地の中央部から古代の遺物を多量に含む遺物包含層が確認された。この遺物群の時期は８世紀後半から９世紀初頭を主体としており、一部10世紀頃までのものが含まれる。また、T33からは瓦塔が４点、T39からは円面硯が１点出土しており、周辺に官衙的性格を有する集落の存在が想定できる。遺物包含層は調査対象地北側へも延びている可能性が高く、遺跡範囲が北方へさらに拡がる可能性がある。

調査対象地の多くの地点で確認した砂礫層は庄川扇状地の末端における堆積と推定できる。調査対象地の北西側では遺物包含層や遺構が確認されなかったが、過去の圃場整備により削平されるなどの影響を受けた可能性がある。

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | へいせいにじゅうはちねんどおやべしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう |
| 書 名 | 平成28年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報 |
| シリーズ名・番号 | 小矢部市埋蔵文化財調査報告書第79冊 |
| 編 著 者 名 | 大野淳也　岡田一広 |
| 編 集 機 関 | 小矢部市教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒932−8611　富山県小矢部市本町1番1号 |
| 発 行 年 月 日 | 西暦2017年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所 在 地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″<br>世界測地系 | 東経<br>°′″<br>世界測地系 | 調査期間 | 調査対象面積（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| みずまきいせきりんせつち<br>水牧遺跡隣接地<br>（仮称 芹川遺跡） | おやべし<br>小矢部市<br>せりかわ<br>芹川<br>1130 ほか 外 | 16209 | | 36° 40′ 32″ | 136° 53′ 44″ | 20161017<br>〜<br>20161129 | 29,407 | 県営農地整備事業（圃場整備） |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水牧遺跡隣接地<br>（仮称 芹川遺跡） | 集落 | 古代 | 土坑、溝、ピット | 土師器、須恵器、円面硯、瓦塔、土錘、鞴羽口、鉄滓、珠洲、近世陶磁器、砥石 | 新規確認の遺跡 |

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第79冊

富山県小矢部市

# 平成28年度 小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発　行　日　　平成29年３月31日
編集・発行　　小矢部市教育委員会
〒932-8611　富山県小矢部市本町１－１
ＴＥＬ　0766-67-1760
印　　刷　　トッププリント